

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071600912		
法人名	学校法人 久留米ゼミナール		
事業所名	グループホーム 御井つつじ苑		
所在地	〒839-0851 福岡県久留米市御井町2011番地	Tel	0942-45-0967
自己評価作成日	令和04年10月24日	評価結果確定日	令和04年12月07日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・外出できない状況でも苑内で季節ごとの行事を行ったり、少人数での近隣への散歩を行い、楽しんで生活を送れるように努めている。                  ・一人一人の生活リズムに合わせて本人のペースに合わせて支援をしている。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel	093-582-0294
訪問調査日	令和04年11月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「御井つつじ苑」は、大学や高校に近い見晴らしの良い住宅地に22年前に開設した久留米市で第一号の地域密着型グループホームである。日常的な挨拶、清掃活動への参加、子ども神輿の休憩場所として駐車場を開放、老人クラブの方々との交流等、長い時間をかけて少しずつ地域の一員として受け入れられてきた。協力医療機関医師による定期的な往診と緊急時の対応、ホーム看護師、介護職員の連携で24時間安心の医療体制が整い、これまで50名以上の看取りを行っている。管理者、2人のフロア一長の優れたリーダーシップの下、風通しの良い働きやすい職場環境が整い、資格を持ち経験の長い職員が定着し、レベルの高い介護サービスが安定して提供されている。日課を決めず、利用者一人ひとりに沿った支援に取り組み、利用者のたくさんの笑顔を載せた「生き生きたより」を毎月家族に送付して家族との信頼関係を築いている、グループホーム「御井つつじ苑」である。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスに基づいた運営理念と介護理念を掲げ、朝礼時に職員は唱和し仕事に活かしている。	職員間で話し合い、作り上げた理念をフロアの見やすい場所に掲示している。朝礼時に出勤職員で唱和し、毎日気持ちを新たにして、利用者一人ひとりのその人らしい暮らしの支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しているがコロナ感染拡大で積極的な地域交流は出来ていない。最近では、感染対策を講じた上で子供みこしの休憩場所として提供した。	開設23年目を迎え、長い時間をかけて少しずつ地域に受け入れられ、自治会の一員として交流に努めてきた。(現在はコロナ禍で自粛している)今年度は子ども神輿の休憩場所の提供、コミュニティセンターに利用者の作品を出展する等、出来る範囲で地域交流が途切れないように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、地域の方との交流が減っている。地域包括支援センター主催の文化祭に利用者で作った編み物を出展した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により運営推進会議は文書にて連絡や報告を行っている。事業所内で起こった事故やレクなどを報告し地域の方々より意見を頂いて改善に活かしている。	利用者代表、利用者家族、自治会長、老人クラブ会長、日常生活自立支援員、民生委員、にこにこ会、介護保険課、地域包括支援センターが委員となり、2ヶ月毎に開催している。現在はコロナ禍で書面での開催となっているが、意見や要望が多く寄せられ、それらをサービス向上に活かしている。	委員に恵まれ、熱心に参加してもらえているので、この関係を大切に継続し、コロナ収束後には地域の困りごとについても話し合うことが出来る開かれた会議運営を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは、事故報告書提出の件で電話での相談も行っている。サービスで不明な点があれば市の担当者に連絡しており、協力関係の維持に取り組んでいる。	管理者は、行政窓口にもホームの空き状況や事故等を報告し、疑問点や困難事例を相談する等、連携を図っている。運営推進会議に行政や地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状を伝え、アドバイスや情報提供を受け、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを掲げ、ケア実践時身体拘束はしないように努めている。玄関の施錠は急こう配の坂がある為家族の同意のもと行っている。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催している。年2回以上、身体拘束についての研修を実施し、職員は身体拘束が利用者に及ぼす弊害を理解して、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束をしない介護の実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑の研修で虐待防止を学び、日々のケアにおいて虐待しないように努めている。また、虐待が見過ごされないように全職員注意を払い隠蔽しないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑の研修で成年後見制度など学んでいる。現在、日常生活自立支援事業と成年後見制度を利用されている方がおられ、研修で学んだ事を活かしている。	権利擁護の制度について、研修で学ぶ機会を設けている。日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している利用者があるため、後見人とのやり取りの中で、理解を深めることが出来ている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は分かりやすく丁寧に説明することに努め、疑問がないか確認した上で締結をしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来苑時に希望、要望を聞きカンファレンスなどで話し合い運営に反映できるよう努めている。	家族面会時や電話で家族の意見や要望、心配な事を聴き取り、ホームの運営や利用者の介護サービスに反映させている。利用者の笑顔をたくさん載せた「生き生きたより」を毎月家族に送付して利用者の暮らしぶりを伝え、家族の安心に繋げている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスに代表者、管理者が出席し職員が直接意見を言える場になっている。また、自由に意見が言えるような雰囲気を作っておりカンファレンス以外でも意見を言うことができる。	毎月カンファレンスを開催し、風通しの良い雰囲気の中、直接代表者や管理者に意見や要望を表せる機会になっている。苑長、管理者と1、2階のフロア一長、看護師が参加してフロア一長会議を月1回開催し、現場職員の意見を基に、運営について話し合われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回、定期的に人事評価を実施しており職員の業績、能力を評価して給与に反映している。また、職員と個別面談を行い要望を話し合っている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢に関係なく採用している。また、職員が得意とする能力に合わせて役割分担を当てやりがいがある業務が出来るよう配慮している。	職員の募集は年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や働く意欲を参考にして採用している。研修受講や資格取得を奨励し、職員が向上心を持って生き生きと働ける職場環境を整えている。人事考課制度の下、職員一人ひとりが目標を持って仕事に取り組み、年数回の個人面談で進捗状況を確認し、働く意欲に繋げている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	苑の研修を通して、人権について理解を深め、日常のケアの中では理念を念頭において業務を行い、人権尊重に努めている。	利用者の人権を尊重する介護の在り方を職員間で話し合い、言葉遣いや対応に注意しながら、利用者が安心して暮らすことが出来る介護サービスに取り組んでいる。また、職員は理念を常に意識して、利用者のその人らしい生き方を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所として外部研修への参加を勧めており受講料や交通費の一部負担し、外部研修を受けやすいようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修先で知り合った方などと情報交換や連絡先を交換してその場だけの関係にならないようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と話す時間を作り要望や不安なことを聞き、納得して入所できるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が何に不安を持っているか、何が負担になっているかを聞いてどのようなサービスが必要か判断し安心して任せいただけるような関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に本人、家族の希望や要望、困っている事を聞き他のサービス導入が必要な場合は他機関と連携している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力を生かし作業等を手伝ってもらい役割を持っていただくことで支えあう支援が出来るように努めている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡をしたり面会時に状態を伝えたりして情報共有している。また、毎月手紙を送り状態をお伝えしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響で外出の機会が減ったが外出が可能な時は思い出の場所やなじみの場所にドライブに出掛けたりしている。	慎重に感染症対策を講じながら面会を解除しており、馴染みの方との面会も要望に応じて対応している。利用者、家族に尋ねながら、馴染みの場所へのドライブ等にも取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新型コロナの影響で少し距離が出来てしまうが話好きな方同士を近くの席にしたり孤立する方が出ないように工夫している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても次の移転先に本人の情報を細かく伝えている。また、家族の様子も年賀状などで伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人と話をし、本人の希望や意向の把握に努め、情報を職員同士が共有して実現に努めている。	日常会話の中から、利用者の思いや意向を聞き取り、記録に残して情報を共有し、実現に向けて取り組んでいる。意向表出が困難な利用者についても、職員の声掛けに対する表情や笑顔から利用者の思いを汲み取り、希望に沿った支援ができるように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から話を伺い生活歴などの把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話中の表情や話し方、定期的なバイタル測定、顔色の変化などで心身状態の把握が出来るよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の生活をより良くするためケアの方法や課題を職員や関係者で話し合い介護計画を作成している。3ヶ月毎に見直し家族の了承をいただいている。	利用者や家族と担当職員はコミュニケーションを取りながら意見や要望を聞き取り、毎月のカンファレンスで検討し、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、介護計画をその都度見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケース記録に日々の細かい観察、気づきなど利用者の気持ちや思いを詳細に記録し職員間で共有している。その現状をアセスメント、カンファレンスで検討しケアプランに繋げている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム以外のサービスが必要であればそのニーズに対応できるよう本人、家族と話し合い関係機関と連携して柔軟な支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、コロナ禍の中にあり地域資源との協働は困難な状況である。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医をお尋ねし出来る限り受診できるようにしている。当苑の主治医で良い方は定期的な往診と急変時にも往診を受けられるようにしている。日々の状態観察で少しでも変化があれば施設看護師が24時間体制で対応している。主治医への報告、相談することで受診や往診を受けている。	入居時に利用者や家族と話し合い、主治医を決めている。提携医療機関医師による月2回の往診と緊急時の対応、ホーム看護師、介護職員の連携で24時間安心の医療体制が整っている。夜間の急変時には、主治医、看護師と連絡を取りながら、適切な医療を受けられるように迅速に対応している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアの中で変化や気づいたことがあった場合すぐに看護師に報告し指示を仰いでいる。看護師は状態を見極め必要に応じて主治医に相談し往診や専門医への受診の指示を受けている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が決まった利用者の出来るだけ細かい情報を提供している。定期的に面会に行き病院との情報交換や職員間での情報共有を行い、退院後の受け入れ態勢を整えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関する方針は入所時に本人、家族に説明し意向を伺っている。その時が来たら必要に応じて家族、主治医、職員で話し合い本人、家族が安心出来るような方向性を決めていく。職員間にも情報を共有してチームで支援に取り組めるように務めている。	「重度化対応・看取り介護指針」を作成し、利用者や家族にホームで出来る支援について説明を行い、意向を確認している。利用者の重度化が進むと、家族に出来るだけ多くの選択肢を提示して判断してもらい、主治医も交えて方針を確認している。これまで50名以上の看取りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	苑内研修で急変や事故発生時にどのように対応したらいいのかを学び、職員全員が実践できるように情報共有している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練を行っている。地域の方々や他の事業所の協力が得られるように日頃から話し合いを行っている。コロナ禍により地域の方々の防火訓練参加は出来ていない状況である。	年2回、昼夜を想定した防災訓練を実施し、消火器や通報装置の使い方、非常口、避難経路、避難場所を確認し、利用者を安全に避難誘導できる体制を整えている。コロナ禍以前は、地域住民の参加も得て実施できていた。非常食や飲料水を備蓄し、保存食の味見会も行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を大切にして理念に基づき優しい笑顔、言葉、心で対応するよう心がけている。また、プライバシー保護を徹底し利用者の尊厳や誇りを損ねないような対応に努めている。	利用者を人生の大先輩として敬い、言葉遣いや対応に配慮している。利用者の尊厳を大切にした介護の在り方を職員間で常に話し合い、日課を決めず、一人ひとりの思いに沿った支援を目指している。利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については周知徹底されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や自己決定を尊重している。一人ひとりが希望を言いやすいような環境作りや良い関係性を築いていけるよう努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを大切にするのを心がけている。起床、就寝、食事の時間など強制することなく柔軟に対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用して好みの髪型にカットしたり身だしなみやおしゃれをすることで日々の生活を楽しく送れるように努めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	レクリエーションとしてお菓子作りを計画して利用者と一緒に作ったり食べたいものを日々の会話の中で見つけ食べたいものを食べたい時に提供出来るよう心がけている。	日頃は配食サービスを利用しているが、好き嫌いの多い利用者に食べたいものを聞いて皆で作ったり、レクリエーションとしてお菓子作りに挑戦する等、少しでも食べることを楽しめるよう支援している。プランターにミニトマトや茄子、ピーマン、さつまい芋を育て、敷地内で採れた柿や栗を収穫して献立に取り入れ、季節感のある食事となるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事形態を考えその方に合った形態で対応している。食事量、水分量はチェックシートを活用し1日の摂取量を把握している。無理なく食事が出来るよう心がけている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方はご自分でされるよう声掛けを行い見守りをしている。介助が必要な方は状態に合わせて介助している。また、訪問歯科を利用して口腔ケアや治療が必要な方は治療を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合わせた介助を行っている。チェックシートを活用してトイレの声掛けやパッド交換を実施している。	利用者の生活習慣や排泄パターンを把握して、利用者のタイミングを見ながら声掛けや誘導を行い、一人ひとりに合わせた排泄の支援に取り組んでいる。夜間帯は利用者の希望や体調に配慮して、トイレ誘導やポータブルトイレ、オムツ、リハビリパンツ等、柔軟に対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の便秘の原因を探り主治医、看護師、必要であれば家族の協力を得て自然排便を促すよう努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴ができる体制をとっている。一人一人の希望を聞いて入浴日を決定している。気分が乗らない方は別日にしたり連続して入浴したりと一人一人に合わせて対応している。	入浴日を事前に決めず、利用者の希望や体調に配慮しながら、2、3日に1回は入ってもらえるよう柔軟に支援している。入浴は、利用者と職員が一对一でゆっくり会話できる時間と捉え、コミュニケーションを図りながら楽しい入浴となるよう努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具類は気持ちよく使えるようにこまめに洗濯や天日干しを行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前に職員2名で間違いがないか確認して服薬介助を行っている。薬を飲み込まれるまで見守りをして落薬や誤薬を防ぐように努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事やレクリエーションを行い気分転換が出来るよう努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援が出来ない状況だった。代わりに近隣への散歩や2階ベランダ、玄関先での外気浴を行ってきた。	新型コロナ感染症対策の為、人混みへの外出は控えているが、近くの公園への散歩やドライブに出かける等、気分転換を図っている。また、玄関先や2階の広いウッドデッキで外気浴をしたり、食事やバーベキューを楽しむ等、工夫しながら戸外の空気を感じられるように取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ前はお会計時に自身でお金を支払ってもらうなど買い物を楽しんでもらえるような支援をしてきた。しかし、コロナ禍で外出支援が出来ない状況だった為、買い物支援も出来なかった。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、暑中見舞いや年賀状を出している。一人一人に一筆書いていただき担当職員も一言添えている。電話は要望があればその都度対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁は季節ごとの壁飾りを利用者と一緒で作成している。玄関にも施設で育てた季節ごとの花を飾るなどして心地よい空間作りに努めている。	高台にあるため風通しが良く、学生寮を改築した広々とした室内は明るく開放的である。季節毎の飾りつけを利用者と一緒に行い、季節の草花を生ける等して季節を感じられるよう工夫している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士を近くの席にしたり一人で過ごしたい方には椅子を用意したり思い思いに過ごせるよう努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や使い慣れたものを自宅から持ってきて頂き使用したり、居室内も本人の心地良い空間になるよう配慮している。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者が使い慣れた家具や寝具、仏壇、位牌、家族の写真等大切な物を持ち込んでもらい、今までの環境に出来るだけ近づけて、利用者が安心して過ごせるよう配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し職員同士で危険と判断した場所是对策を講じている。出来るだけ廊下などには物を置かず安全に移動が出来るよう努めている。		